

## 『里海』生誕20周年記念シンポジウム “里海 Satoumi” 20年の歩み～振り返りと将来展望～

### 《概要》

備前市の田原隆雄市長の歓迎のことばに始まり、NPO 里海づくり研究会議の松田治理事長（広島大学名誉教授）が主催者を代表して開会あいさつ、共催者を代表して環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室の山本郷史室長が開会あいさつを行った。

基調講演については、3つの視点から行われた。まず、基調講演Ⅰは、「里海」の海の親であるNPO 里海づくり研究会議の柳哲雄副理事長（九州大学名誉教授）が、20年の歩みを振り返り、国内外に広がったこれまでの里海の歴史を辿るとともに、これからの中里海づくりを考えるための議論の端緒を提供した。

基調講演Ⅱは、6年以上を費やして日生の里海について研究し、これをテーマに東京大学において2018年に博士号を取得した釣田いずみ氏から、地元民の目ではなく第三者の視点で研究してきた日生の里海づくりを紹介した。備前市立日生中学校は2013年から、備前市立日生西小学校および岡山学芸館高校は2017年から、アマモ場再生活動を海洋教育として取り入れ、漁師達とともに実際に海に出て活発に活動しており、子ども達にとって一生忘れられないインパクトある貴重な体験として、漁師達と協働して行うアマモ場再生活動について、子ども達の新鮮な感覚で捉えた里海づくりの姿を表現した。

基調講演Ⅲは舞台を世界に移し、ワシントン大学 Research Assistant Professorで、地球規模の気候変動が海に与える影響を予測するネレウスプログラムのプログラムの統括責任者である太田義孝助教授から、世界の海の危機を解説するとともに、国際社会から見て「里海」はどう捉えられているのか、また、「里海」に何を期待するのか、パネルディスカッションにつながる内容に言及した。

昼食を挟んで午後の部では、全国各地から我が国を代表する里海から、6名のトップランナーが登壇し、2018ミス日本「海の日」の山田麗美さんの司会進行で進められた。

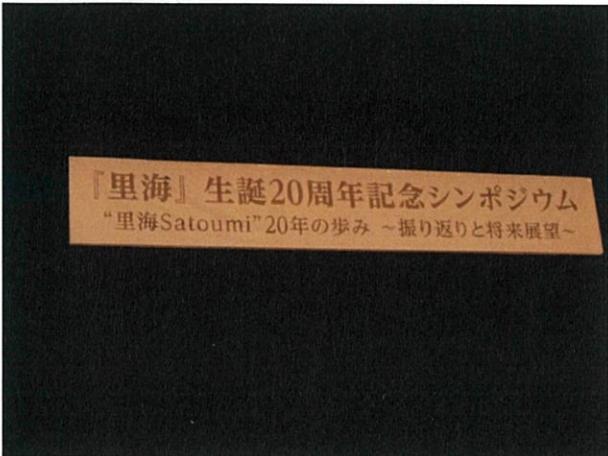
宮城県志津川湾からは、（一社）サスティナビリティセンターの太齋彰浩代表理事による「震災と漁業再生～いのちめぐるまちのカキ養殖～」で、東日本大震災の後、漁業者とともに「がんばる養殖復興支援事業」に取り組み、宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所「カキ部会」の日本で初となるカキ養殖のASC（水産養殖管理協議会）国際認証を受けるまでの歩みと今後の方向性について紹介された。東京湾からは、NPO 海辺つくり研究会の古川恵太理事による「官民連携で盛り上げる里海づくり・東京湾」で、官民連携で取り組んできた東京湾の多岐にわたる里海づくりのこれまでとこれからについて紹介された。三重

県志摩市からは、志摩市政策推進部里海推進室の浦中秀人室長による「御食国を支える里海の創生」で、我が国において“里海づくり”を初めて市政に取り入れ積極的に推進してきた志摩市において、新たなステップに入った里海の創生について紹介された。岡山県備前市からは、漁協職員として当初からアマモ場再生活動など里海づくりに参画し、今では漁師達のまとめ役である日生町漁業協同組合専務理事の天倉辰己による「森里川海をつなぐ里海づくり～里海からの発信～」で、日生の漁師たちによる30年以上に及ぶアマモ場再生活動に端を発し、今では一般市民、里山の人達、子供たちが加わり、海洋教育への展開や、地域や世代を越えた大きなムーブメントになった経緯と今後の展開が紹介された。香川県からは、香川県環境森林部環境管理課里海グループの中西正光課長補佐による「かがわの里海づくり」で、我が国において県政として初めて里海を導入し推進している香川県において、幅広く展開されている里海づくりについて紹介された。沖縄県恩納村からは、恩納村漁業協同組合の山城正巳組合長による「恩納村の里海づくり～サンゴの村宣言について～」で、2018年3月5日「サンゴの日」に公表された「サンゴの村宣言」を通じ、世界に向けて発信した「世界一サンゴにやさしい村」の取り組みについて紹介された。

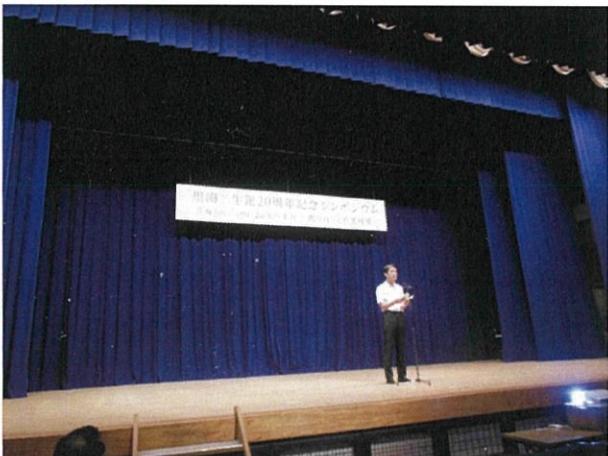
最後のセッションとして、基調講演及び「全国の里海から」の演者が勢揃いし、「これから里海づくりを考える～世界に発信する“Satoumi”とは～」とのテーマでパネルディスカッションが行われた。コーディネーターは、国立研究開発法人水産研究・教育機構 理事（水産大学校代表）鷺尾圭司代表が務めた。「里海」が、20年の時を経て漁業と海の環境の共生関係の確立というカテゴリーから、森川里海を繋ぐ沿岸域総合管理を含め日本の沿岸域コミュニティを継続するための地域ガバナンスの理念というところまで議論が広がった。さらに、現在、国において進められている水産政策の大改革にまで議論は及び、里海をキーワードとして持続可能な地域を守るための体制を構築していくには、「里海推進法」等の法制化をも視野に入れて進めていくことが必要との共通認識が得られた。また、地域ごとに多様な環境、経済、社会条件がある中で、地域ごとにより良い「里海」を創生していくためには、同志が集い話し合うことが大切で、今後とも本シンポジウムのような集いの場を持ち、様々な立場、世代の人々が地域を超えて議論を尽くしていくことが必要で、里海ネットワークの拡大と強化を目指すことについても共通の見解が得られた。

最後に、(公財)おかやま環境ネットワーク理事・里海づくり推進部会の田中丈裕部会長(NPO里海づくり研究会議理事・事務局長)が、閉会あいさつとして、1～2年毎を目途に本シンポジウムのような同志が集う場づくりを実現させ、里海ネットワークの拡大、強化を目指すことを確認し、幕を閉じた。

## 《開催状況》



松田治理事長 開会あいさつ



山本郷史室長 開会あいさつ



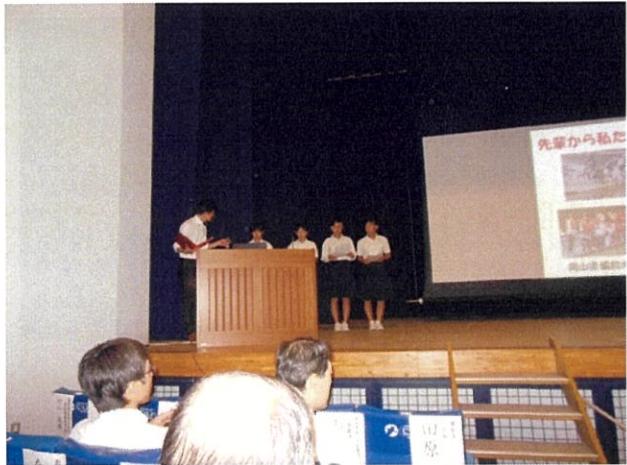
会場状況



柳哲雄副理事長



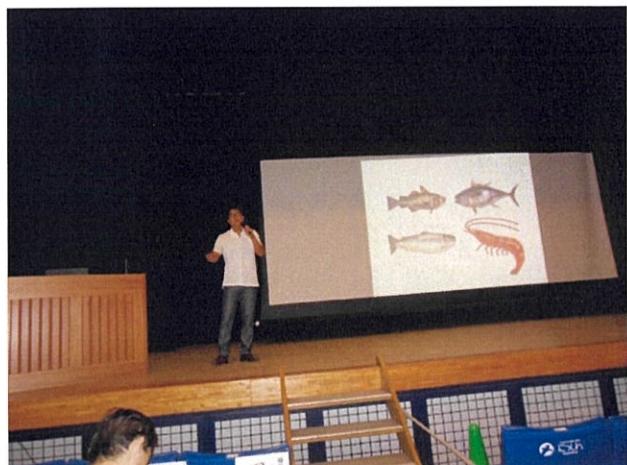
釣田いずみ氏



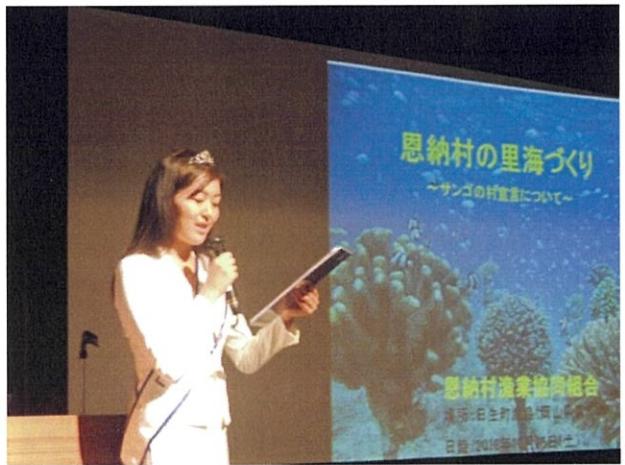
備前市立日生中学校



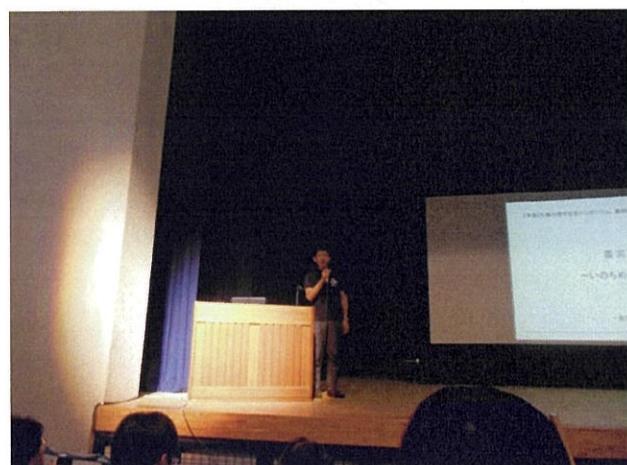
岡山学芸館高校



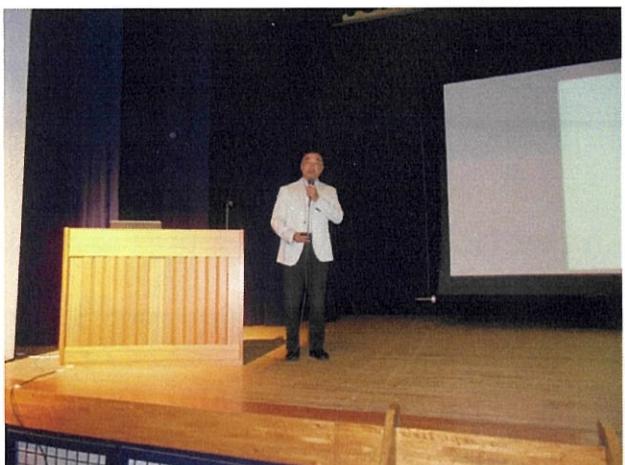
太田義孝 助教授



2018 ミス日本「海の日」 山田麗美氏



太斎彰浩代表理事



古川恵太氏



熱心に聞き入る高校生達（岡山学芸館高校）



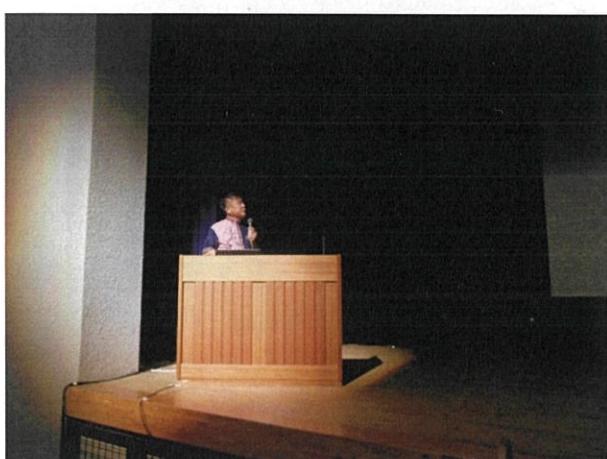
浦中秀人室長



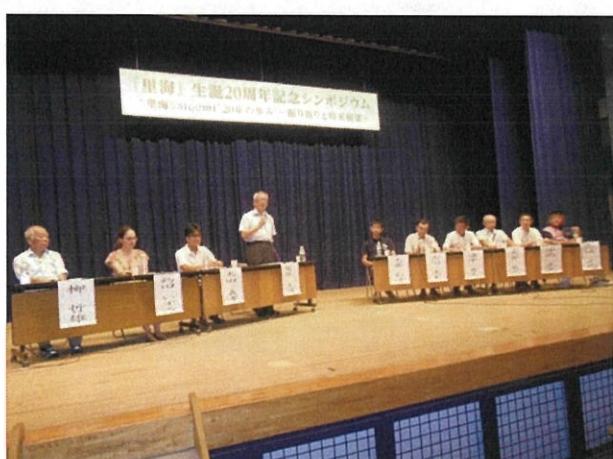
中西正光課長補佐



会場状況



山城正巳組合長



パネルディスカッション



質疑：笹川平和財団海洋政策研究所  
角南篤 所長



田中丈裕部会長 閉会あいさつ



演者及びパネリスト：岡山学芸館高校の高校生たちと